

農業法人で働く人たち

「新規就業者から法人理事へ」

— 岡山県の（農）清藤（きよとう）理事 平泉繁さん（46） —

大阪府内のコンピューターメーカーでシステム・エンジニアとして勤務していた平泉さんが、就農を意識したのは32歳のとき。「敷かれたレールの上ではなく、自分なりの道を歩みたい」と考えていたことがきっかけだった。

岡山県の就農支援制度を利用して、同法人で研修生から「農業」をスタートした。将来、経営参画することは、当初から決まっていたが、平泉さんは農業経験ゼロ。「何をやるにも、とにかく無我夢中でした」と必死で作業したという。

研修を身近で見守ってきた奥田信介理事は「すべてに対して前向きで、農業でやっていくんだという揺るぎのない意志を持っていました」と評価。2年間の研修後、すぐに理事（販売担当）となった。

前職での技能を活かして、販売管理用のプログラムを作り、顧客管理をデータベースで行えるようにした。現在では、従来の注文による個別販売のほか、インターネット販売やダイレクトメールなどを利用して、全国に顧客を増やしている。

平泉さんは、「私は農業も農作業もよく分かっていないまま、転職しました。その分、苦労も多かったのかもしれませんが、就農に最も必要なのは、知識ではなく障害があっても乗り越えられる力だと感じています」と自身の就農を振り返った。

《農事組合法人 清藤》

所在地：岡山県真庭市

設立：1993年

代表者：代表理事 平郷之氏

主な経営内容：ナシ、ブドウの生産、販売
（8割以上が直接販売）

経営面積：約400a

作業従事者数：14人（常勤理事4人含む）

◆雇用への考え（奥田理事談）

「これからの農業は個人では続けられないという危機感を持っていました。意志決定に加わる人数を増やせば、それだけ組織に柔軟性が出ると考え、また、組織の活性化や後継者確保のためにも若い人材をどんどん取り入れる必要があると考えています」



清藤の経営陣（右が平泉さん、中央が奥田理事、左が平郷之代表理事）

◆事務局便り◆

（農）清藤にお伺いしたのは、昨年12月でした。皆さん、自身の仕事に誇りを持っていて、写真のように素晴らしい笑顔をされていました。清藤の進歩的な考え方と平泉さんの挫けない力に、雇用の継続に必要な原点を見た気がしました。